

## 香美市 下水道事業 経営戦略 【概要版】

## 1. 策定の目的

- 本市は、施設の老朽化、人口減少等の公共下水道事業を取り巻く課題が顕著になりつつある中、公共用水域の水質保全を図り、環境と調和の取れた市街地を未来に引継いでいくことが本事業に課せられた使命と考え、将来にわたり持続可能な経営に向けた取り組みを進めていくため、経営戦略を策定します。
- 計画期間は、令和5年度から令和14年度の10年間とします。

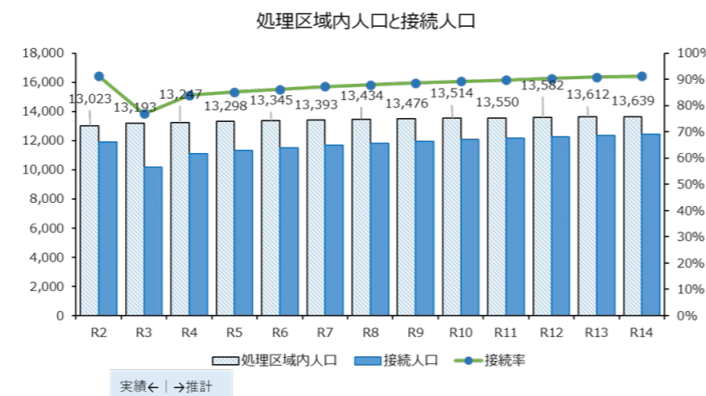
## 2. 公共下水道事業の現状

- 公共下水道事業は、県の流域下水道へ接続し、高知市、南国市、香美市の3市で処理場運営を行っています。特定環境保全公共下水道事業及び農業集落排水事業は、市内のクリーンセンターにて処理場運営を行っています。
- 経費回収率は類似団体と比較して高い水準を維持しており、維持管理費用については使用料収入で賄えておりますが、地方債償還金は一般会計からの繰入金により賄われているため、健全経営とは言えない状況です。
- 適切な使用料収入の確保のため、令和3年度から下水道使用料の改定を実施し、使用水量1m<sup>3</sup>あたり税込33円を増額しました。(ただし、経過措置として、令和3年4月検針分から令和4年3月検針分までは現行の料金で据え置き、令和4年4月検針分から令和9年4月検針分までは使用水量1m<sup>3</sup>あたり税込16.5円の増額となっています。)
- 今後、下水道総合地震対策計画に基づき実施している管渠の耐震診断や将来の管渠の更新に向けた財源の確保のため、維持管理費の節減及び水洗化率の向上に一層取り組むとともに、耐震診断の結果やストックマネジメント計画(維持管理計画)に基づき、計画的な更新・維持管理を行っていく予定です。

## 3. 将来の事業環境

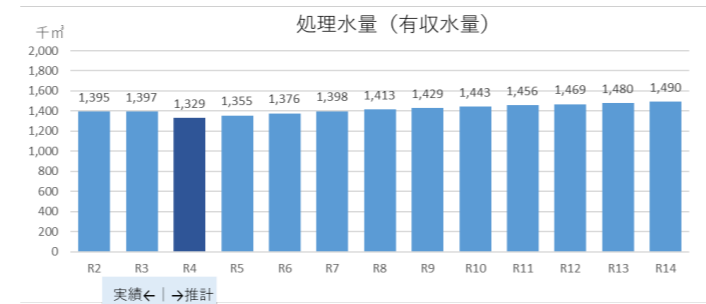
## (1) 処理区内人口

- 計画期間内では、処理区内人口、接続人口ともに増加する予測となっています。
- 本市全体では人口下落が続いていますが、処理区域内は、市街地の中心部であり、当面は、人口の微増が期待できると考えています。



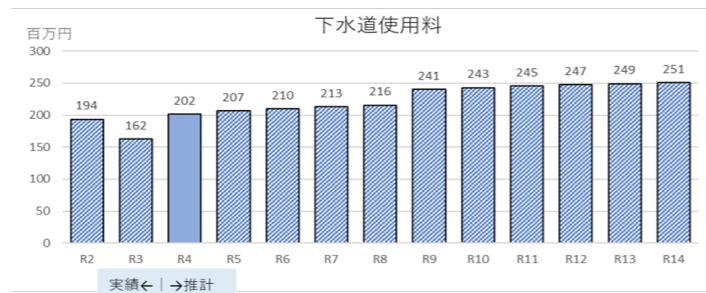
## (2) 水需要

- 接続人口の増加により、水需要についても、計画期間末の令和14年度には、約1,490千m<sup>3</sup>となる予測で、令和3年度の約1,397千m<sup>3</sup>から約93千m<sup>3</sup>の増加を見込んでいます。



## (3) 使用料収入

- 水需要が増加することにより、計画期間末の令和14年度には、約251,045千円で、令和3年度の約162,411千円から約88,634千円の増加を見込んでいます。

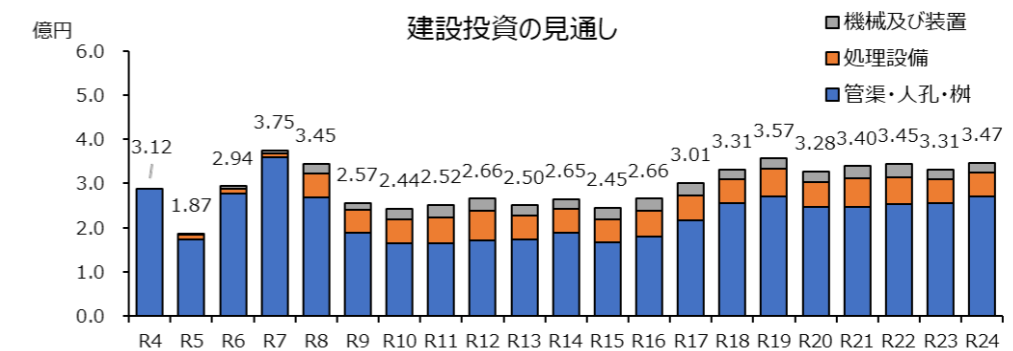


## 4. 経営の基本方針

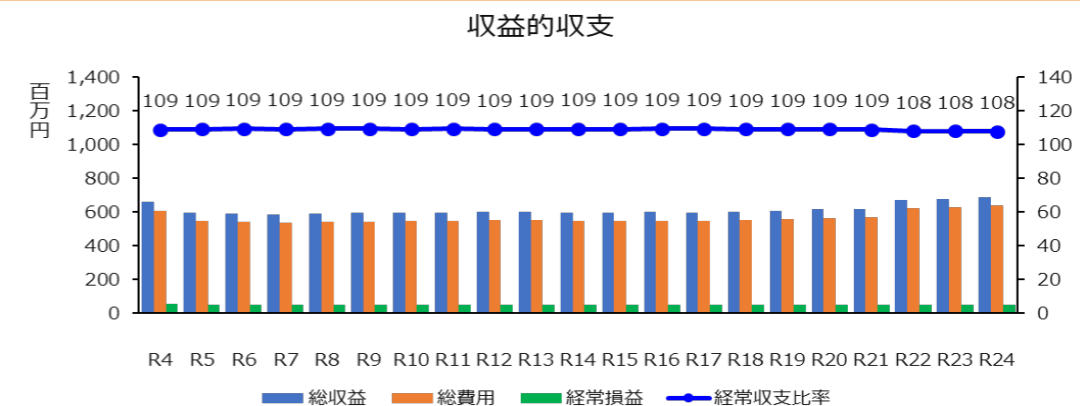
- 第2次香美市振興計画に掲げている「基本方針2.みどりを保つ(消防、防災、水道、汚水、環境等)」に基づき、汚水を衛生的に処理し、公共用水域の水質保全を図ります。
- このことを実現するために、受益者負担の原則のもとに公営企業として能率的に運営することを目指します。

## 5. 投資・財政計画

- 今後、管渠布設からの経過年数に応じて老朽化対策が必要となることから、耐震診断の結果やストックマネジメント計画(維持管理計画)に基づき、計画的な更新・維持管理を行っていく予定です。
- 以上を踏まえて、今後10年間で約24.7億円、20年間で約59.2億円の事業費が必要になると見込んでいます。



- 収益的収支(業務)は、使用料改定及び接続率の向上に伴う料金収入と、一部、一般会計からの繰入を勘案して収支均衡の計画を定めました。



## 6. 今後の検討予定等

- 投資の平準化、民間活力の活用など、中長期的な課題に対しても継続的に検討し、着手可能なものから段階的に取り組みます。
- 料金、企業債など財源の適正化を図ります。
- 委託料、修繕費、動力費などの各種費用に関して、より効率的、経済的な手法等、引き続き検討を行い、コスト削減に努めていきます。

## 7. 経営戦略の事後検証など

- 将来にわたって安定的に事業を継続していくため、投資・財政計画の達成状況について毎年度進捗管理を実施し、計画と実績の乖離を検証するとともに必要な対策を講じます。